

松峯沢(下降)

1984年7月15日

L

11:50沢に降りる。降りた地点より50m程上流に行くと、1:1のはっきりした二俣があった。

この沢も相変わらずナメの沢かと思ったが、ナメのあったのは最初のうちだけで、あとは小滝が2、3あるのみの平凡な沢であった。

途中昼食にするが、食べ始めたとたん雨が降ってきた。誰かが言った。「大西さんと一緒じゃ仕方ない。」楽しいはずの昼食も早々に切り上げ、先を急ぐことにする。

少し歩くと、倒木群がある。朽ちかけていて、体重のある人は、枝に登るたびに「バキッ」と枝を折っている。かなり長く続いたように感じた。

ここを抜けると、今度は沢が伏流になっていて、石の上を歩くだけになる。伏流が終わった所はもう白根沢との出合であった。はずれの沢であった。

(記・

【タイム】 下降開始(11:55)→白根沢出合(12:45)

布入川支流後沢

1984年6月9日

L

布入部落の少し先に車を置いて、部落の中を通り布入川に入る。雪解けによる増水を見越していたが、もう水もぬるみ、水量も少なかった。後沢出合までは滝が1つと砂防ダムが1つあった。

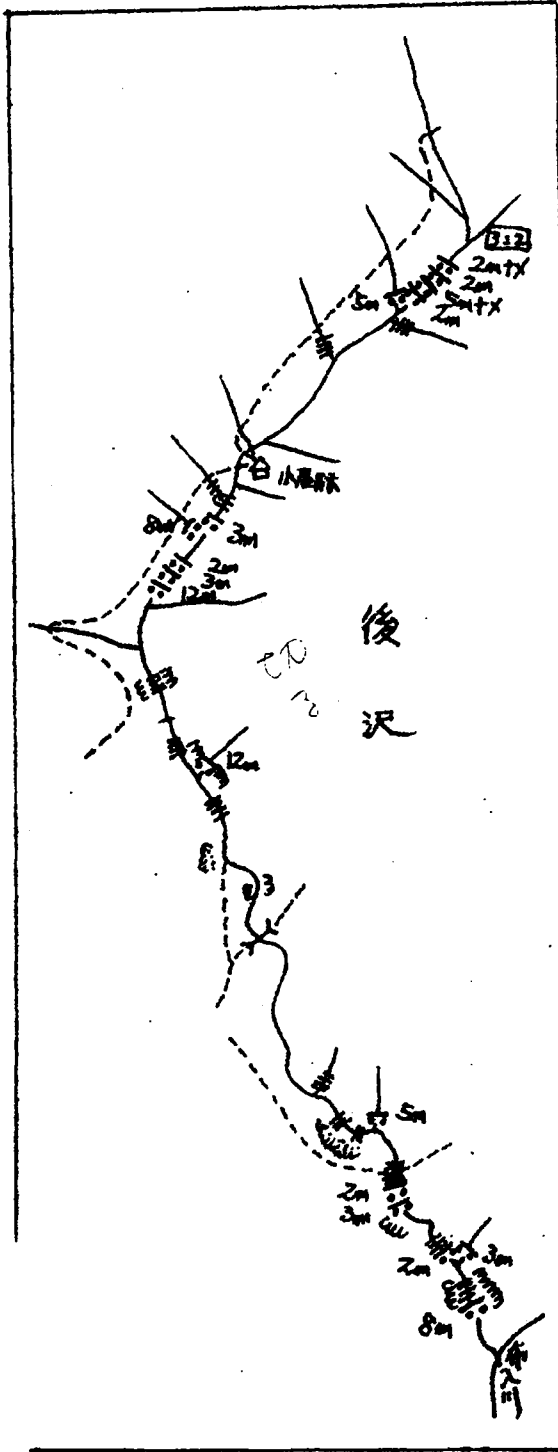
10:05後沢出合。後沢に入っすぐ、沢が右に曲がり、その先にF₁ 8mが現われた。左より登り、右へ斜上して越える。

上はナメである。右より瀑滝をかけた支沢があって、本流は小滝が続き、ナメが随所に見られた。

やがて踏跡が沢を横切る。ここから焼松よりの道にかかる丸太橋の所まではヤブコギをしながらの進行となった。

丸太橋を過ぎると、今度は沢が大きく左へ右へと曲がる。兩岸の所々にスラブが見られるが、沢の方は一部にナメが出てくる程度で平凡。

ミニゴルジュを過ぎ、左右から支沢を合わせた先で12mの滝。真中をシャワーで直登できそうにも思えたが、右側を直登する。上部が少し不安定なので、長いシュ



リングでビレーした。

この上の小滝は何なくパス。この少し上流左岸には骨組みだけが残った小屋の残骸があった。このあたり滝はしばらくかからないが、イワナの姿を時々みかける。1匹手づかみでつかまえた。16cm。小さいので逃す。魚止めはこの先2mの滝であった。

魚止めに続く小滝群を越えると二俣。左に入る。するとすぐまた二俣。左は水がないので、今度は右に入る。しばらく歩くと、炭焼きの跡が随所に見られるようになった。

水が濁れた所で進行終了とし、少し戻った後、踏跡を使って戻る。

(記・)

[タイム] 布入部落(9:15)→布入川(9:30)→後沢出合(10:05)→丸太橋(10:40)→進行終了(13:00)

草崎沢(下降)

1984年8月4日

コルよりすぐ下の草崎沢に降りる。所々にナメが出てくるが、案々下降である。

やがて小滝がいくつか出てくるが、特に障害となるようなものはない。

沢も終わりとなる頃、6mの滝が出てきた。この沢で初めての滝らしい滝。クライミングダウンするとまも